

施策評価調書

施策名	5-1-5	学校安全指導の充実		施策を取り巻く環境変化	特に平成24年は、児童生徒が巻き込まれる痛ましい交通事故や誘拐事件が多発しています。地域全体で子どもたちを犯罪から守るための工夫や、子どもたち自身が自分の身を守る重要性を積極的に学ばせる必要があります。
		地域経営計画(後期計画) 該当ページ	P. 65		
担当部課	教育部 子どもみらい課	担当 リーダー	学校教育担当 阿久津 径行		

1. 住民意識調査結果

21年度(10月実施)		25年度(※実施予定)		26年度(※実施予定)	
満足度	(※該当項目なし)	満足度	第 位/全 施策	満足度	第 位/全 施策
優先度	(※該当項目なし)	優先度	第 位/全 施策	優先度	第 位/全 施策

満足度:「満足である」、「どちらかと言えば満足である」を合計した割合から、「どちらかと言えば不満である」、「不満である」を合計した割合を差し引いたもの

優先度:「優先すべき」、「やや優先すべき」を合計した割合から、「あまり優先しなくてよい」、「優先しなくてよい」を合計した割合を差し引いたもの

2. 施策の目標

指標	基準値	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
(交通安全・防犯意識の高揚)							
指標1:登下校時の児童生徒防犯ブザー所有率:(%)	22年度実績	計画	72.8%	79.6%	86.4%	93.2%	100.0%
	66.0%	実績	↓ 66.7%	%	%	%	%
指標2:児童生徒の交通事故件数:(件)		計画	12件	9件	6件	3件	0件
	16件	実績	↓ 16件				
指標3:子ども110番の家登録件数(件)	23年度実績	計画	—	360件	370件	380件	400件
	354件	実績	—				
指標4:		計画					
		実績					
指標5:		計画					
		実績					
指標に関する特記事項	○児童生徒が登下校時の安全を確保するため、防犯ブザーを小中学生全員に所持して対応してもらうことを目標に指導をしていきます。また児童生徒の交通事故ゼロを目標に安全指導を徹底して行います。特に中学生においては、自転車の正しい乗り方の指導も実施しながら事故件数ゼロをめざします。						

進捗状況の区分 ↑:目標以上の成果があった →:目標どおりの成果があった ↓:目標に至らなかった △:遅延・未着手等 ×:見直し・廃止等

3. 施策に係る経費

事業費(傘下事務事業費計)の推移【単位:千円】 (※総事業費)	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	当初	34,710	40,200	35,220		
	決算	30,602				

4. 施策傘下事務事業 ※別紙のとおり

5. 施策評価

後期計画における施策展開のビジョン		H25年度の狙い
自己評価(部)	H23 事後評価	スクールガード、青色灯防犯パトロール(青パト隊や町職員)、子ども110番の家など、教育委員会や各学校において、地域を巻き込んだ安全指導や防犯対策を行いました。交通安全教育(特に自転者の安全走行)や防犯教育(特に防犯ブザーを鳴らす場面に遭遇させない)を徹底し、自分を守る方法も指導していきます。
	H25 事前評価	子どもたちの安全を守るため、上高根沢小学校の地域住民参加型の「地域ハイタッチ運動」のような取り組みを全町に広げ、家庭やPTAとの連携はもちろん、地域の大人も含めた安心できるまちづくりを進めます。
総合評価(町長)	総合評価	施策傘下事務事業に係る個別指摘事項
	スクールガードや青パト隊、子ども110番の家等、関係機関を巻き込んだソフト的な施策展開を、着実に推進していることを評価するが、取組み自体が施策というより日々の取組みと感ずるので、次期地域経営計画においては、施策そのもののあり方を再考されたい。	・「児童安全通学対策事業費」については、「条件付継続事業」とする。現行制度(2km以上という条件等)の妥当性を再考する一方で、今日の財政状況等も考慮のうえ、運行経路や停留所のあり方、受益者負担のあり方の検証を開始されたい。また、当該検証にあつては、内部におけるシュミレーションの期間、外部との調整期間等、今のうちから緊密なスケジュールを示した上で、随時適切に進捗管理をされたい。 ・その他の施策傘下事務事業については、全て「継続事業」とする。